Environmental Activity Report

鬼怒川ゴムグループ環境報告書2016

鬼怒川ゴム工業株式会社
KINUGAWA RUBBER INDUSTRIAL CO.,LTD.

編集方針

本報告は鬼怒川ゴムグループの環境に対する考え方、取り組みをステークホルダーの皆様に分かりやすく伝えるために編集しました。

目次

■ P2　編集方針・目次

■ P3　トップメッセージ・環境理念・環境方針

■ P4　報告対象組織

■ P5　会社概要・売り上げの推移

■ P7　環境マネジメントシステム・環境マネジメント推進組織

■ P10　中期環境目標

- P11　CO2 排出量（エネルギー使用量）
- P14　産業廃棄物量
- P15　VOC（揮発性有機化学物質）発生量

■ P16　グローバル環境データ（水資源投入量、CO2 排出量、産業廃棄物量）

■ P16　そのほかの環境データ

- P16　大気汚染物質の排出防止
- P17　PRTR
- P18　マテリアルバランス

■ P19　ステークホルダーとの関わり

■ P21　生物多様性

Top Message

『きれいな環境　残そう子供達』、このスローガンこそが当社の環境への取り組みに対する原点であり、『お客さまの満足の追求』と『CSRへの取組み』を通じて『社会貢献』を実現するために、自らの製品と企業活動におけるすべての環境負荷の低減を積極的に行っております。

この取り組みを達成するために、当社はもちろん、グループ全体での企業活動と関わりのあるエネルギーや、資源問題などを重要な課題としてとらえております。

これからもより一層、製品の環境性能を高めるために、今後の自動車市場の拡大と多様化を慎重に見極めながら製品の軽量化・樹脂化等により、生産に使用するエネルギーの削減活動を行うと共に、3R(リユース・リデュース・リサイクル)を促進し、産業廃棄物　最終処分量の削減活動も積極的に行っております。

こうしたグループでの諸活動を計画的に推進、目標を達成するために、環境マネジメン認証取得の推進やグループ 5 極体制での環境マネジメント推進活動を行っております。また、製品設計段階から、環境負荷の低減に向けた取り組みを行い、製品の改善を行い、お客様から信頼される高品質な製品づくりを行っております、

また、グループ各社やその従業員がそれぞれの地域社会との交流を通じて、地域社会発展の一助となるよう、地域共生活動をはじめとした様々な取組みを行っております。調達関連ではグリーン調達の推進として、各国の化学物質規制に沿った資材・部品等の調達や天然ゴム調達に伴う「生物多様性」の問題についても、地球環境保全のための課題として関心を払っております。更に、従業員へは中堅社員の外部研修支援、若手社員の海外研修によるグローバル人材の育成と、ダイバーシティでの取り組みによる誰もが活躍できる環境づくりを推進しています。

『お客様から喜ばれ、感謝されるグローバルサプライヤー』を目指して、今後も時代を先取りした、環境にやさしく、人を大切にした高品質な商品提供を通じて、より一層社会への貢献を図ってまいります。

鬼怒川ゴム工業株式会社　代表取締役社長執行役員　関山定男

環境理念

当社は、地球の環境保全が全世界の重要課題であることを認識し、活力ある生活環境を提案する活動を通じて、豊かでゆとりある社会造りに貢献します。

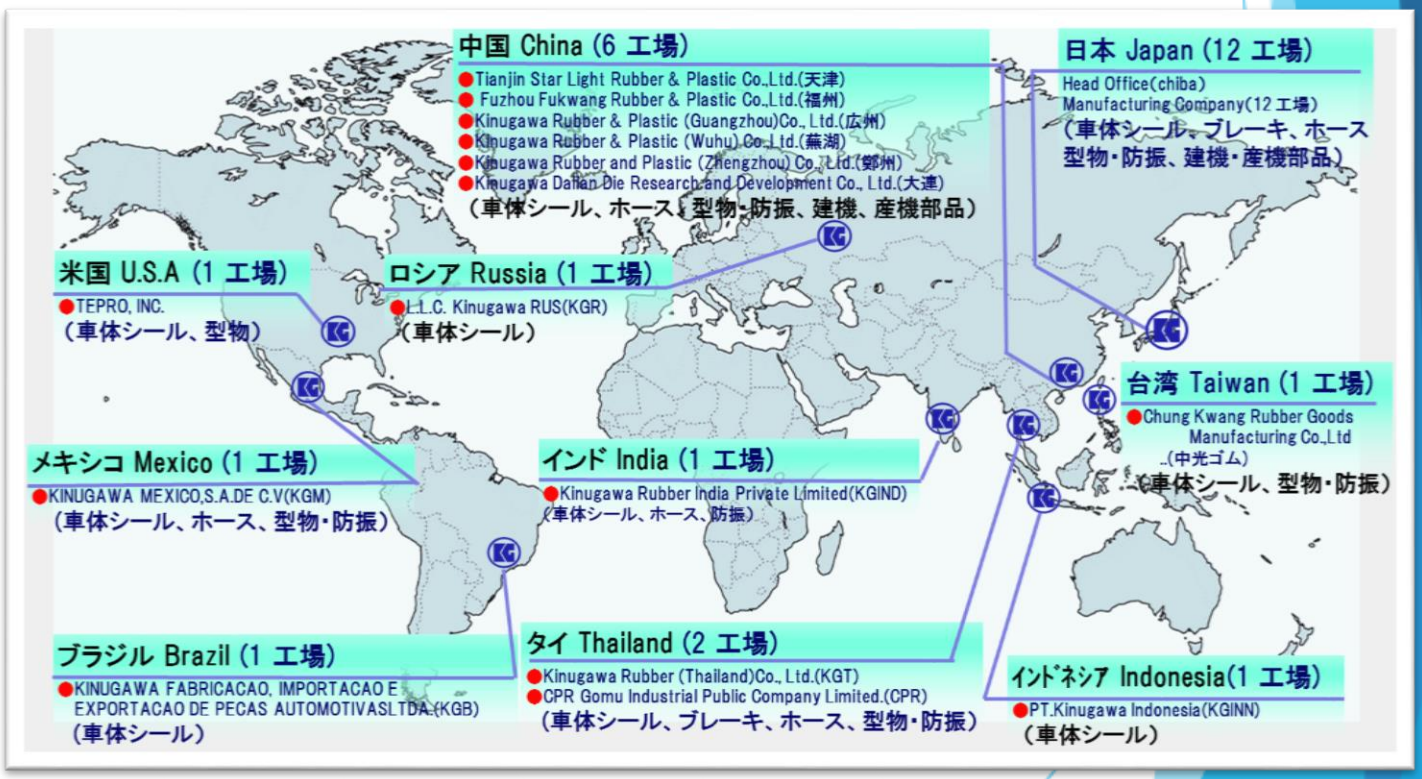
環境方針

当社は、『きれいな環境　残そう子供達に』をスローガンに、環境保全活動を当社の全ての活動に適用します。

1) 当社の事業活動が、地球環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な環境保全の目標を定め、汚染の予防・継続的な改善を進めながら地球環境保全に努めます。
2) 当社は自然環境と社会との調和を図る為に生産活動を中心に、省エネルギー、省資源及び廃棄物や環境負荷物質の低減を目指します。
3) 関連する法規及び条例、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、当社の技術的・経済的に可能な自主規制を制定し、環境保全に取り組みます。
4) 当社の環境保全を推進する為に、一つひとつの部門、従業員一人ひとりが有効に活動できるように組織を整備し運営します。

■ 報告対象組織

報告対象組織は国内 12 拠点、海外 13 拠点
報告対象期間は 2015.4～2016.3（国内）、2015.1～2015.12（海外）です。



■ 会社概要

会社名	鬼怒川ゴム工業株式会社 Kinugawa Rubber Industrial co., ltd.
創　立	昭和 14 年 10 月 1 日
資本金	56 億 5 千 4 百万円（平成 28 年 3 月 31 日現在）
売上高	連結　802 億円　単独　304 億円（平成 28 年 3 月期）
発行済株式総数	67,299,522 株（平成 28 年 3 月 31 日現在）
代表者	代表取締役　社長執行役員　関山定男
本社所在地	〒263-0005　千葉県千葉市稲毛区長沼町 330 番地 Tel:043-259-3111（代表）
従業員数	連結：4,403 名、単独：291 名（平成 28 年 3 月 31 日現在）

【弊社株式の上場廃止について】

平成28年　9月12日　日本政策投資銀行グループ（以下　DBJと称する）による
公開買付けの実施によりDBJの完全子会社化

平成 28 年 10 月 21 日　株式会社東京証券取引所　第一部　上場廃止

平成 28 年 12 月 1 日
株式公開買い付けによる資本金及び発行可能株式総数について。
資本金：135 億円
発行済株式総数：1,000,000 株

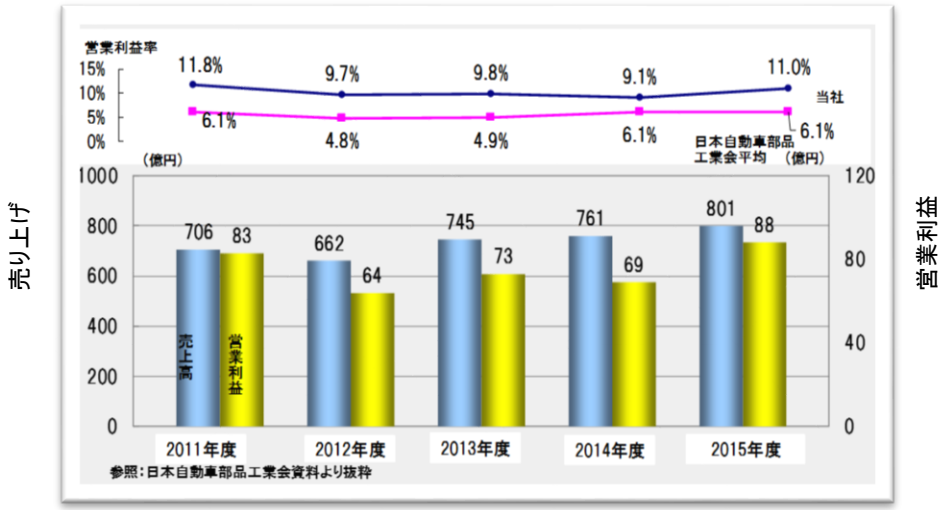
● 事業内容

1. 自動車用並びにその他の使用に供するゴム及び合成樹脂製品の製造販売。
2. ゴム及び合成樹脂製品製造機械設備の製造、販売、修理。
3. 金属加工機械設備の製造、販売、修理　。
4. 内装工事、タイル・レンガ・ブロック工事の請負、施工。
5. 不動産、動産の賃貸借、売買、仲介及び管理　。
6. 情報通信機器の販売及び賃貸借　。
7. 陸上運送業、倉庫業及び荷造梱包業。
8. 損害保険代理業及び生命保険募集に関する業務。
9. 食料品及び日用品雑貨の販売。

主要取引先（五十音順）

愛知機械工業株式会社	Aichi Machine Industry Co.,Ltd.
株式会社エフテック	F-TECH INC.
カルソニックカンセイ株式会社	Calsonic Kansei Corporation.
河西工業株式会社	Kasai Kogyou Co., Ltd.
ジャトコ株式会社	JATCO Ltd.
スズキ株式会社	Suzuki Motor Corporation.
ダイハツ工業株式会社	Daihatsu Motor Co.,Ltd.
東洋ゴム工業株式会社	Toyo Tire＆Rubber Co.,Ltd.
日産工機株式会社	Nissan Kohki Co., Ltd.
日産車体株式会社	Nissan Shatai Co.,Ltd.
日産自動車株式会社	Nissan Motor Co.,Ltd.
日立オートモティブシステムズ株式会社	Hitachi Automotive Systems,Ltd.
株式会社ファルテック	Faltec Co.,Ltd.
フォルクスワーゲン	Volkswagen AG
富士重工業株式会社	Fuji Heavy Industries Ltd.
プレス工業株式会社	PRESS KOGYO Co.,Ltd.
ボッシュ株式会社	Bosch Corporation.
堀硝子株式会社	Horigarasu Co.,Ltd.
本田技研工業株式会社	Honda Motor Co.,Ltd.
三菱自動車工業株式会社	Mitsubishi Motor Corporation.
明治産業株式会社	MEIJI SANGYO COMPANY
UDトラックス株式会社	UD Trucks
ユニプレス株式会社	Unipres Corporation
株式会社ヨロズ	YOROZU CORPORATION.

● 業績の推移



製品別売上高（2016 年 3 月期）

■　関係会社環境マネジメントシステム

国内外の主な生産拠点で環境マネジメントシステム（ISO14001）の認証を取得しています。新規拠点も順次認証取得しています。

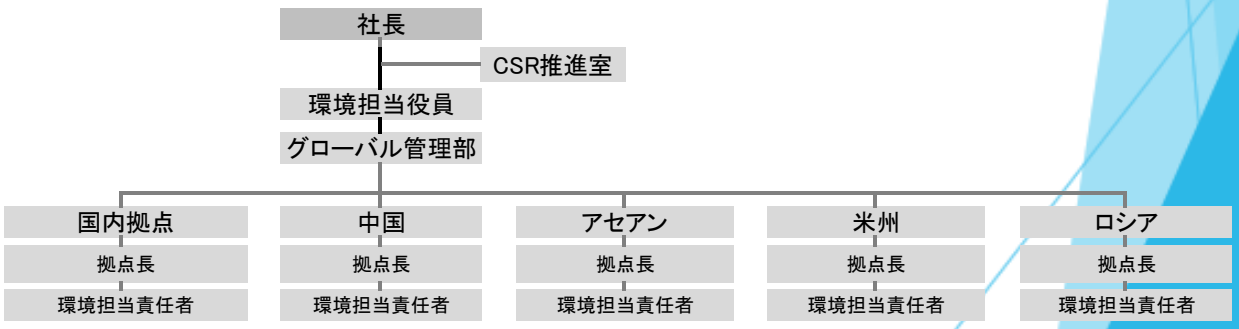
ISO14001認証取得状況

会社名	所在地	取得時期
真岡事業所 (株式会社キヌカ゛ワ防振部品、株式会社キヌカ゛ワブレーキ部品)	栃木県　真岡市	2002年
株式会社キヌガワ郡山	福島県　郡山市	2003年
株式会社キヌガワ大分	大分県　中津市	2003年
帝都ゴム株式会社	埼玉県　入間市	2003年
CPR GOMU IND.　P.L.C	タイ　アユタヤ県	2004年
中光橡膠工業股份有限公司	台湾　桃園県	2004年
福州福光橡塑有限公司	中国　福州市	2004年
佐藤ゴム化学工業株式会社	千葉県　成田市	2005年
鬼怒川橡塑（広州）有限公司	中国　広州市	2007年
KINUGAWA (Thailand) CO. , LTD	タイ　アユタヤ県	2008年
TEPRO,　INC.	アメリカ　テネシー州	2011年

●環境マネジメントシステム推進組織

環境マネジメントシステムの認証取得推進、維持更新のほか、グローバル拠点で CO2 排出量、取水量、産業廃棄物量を把握することにより、環境負荷の少ない企業活動を進めています。

環境マネジメントシステム推進組織



●環境リスクマネジメント

生産拠点では環境負荷に影響のある化学物質を多く使用しておりますが、適正な管理を行い外部への漏出、大気への放出等を防いでいます。一方、地震などの天災により地域周辺の環境汚染が発生する恐れがある場合、緊急事態対応として「緊急事態の対応計画書」により環境負荷物質の暴露を最小限に留めます。

①緊急時の体制及び責任。

②対応方法。

③環境影響を予防・緩和する方法。

④社内外への連絡方法。

構内で化学物質を使用している作業エリアでは化学物質が漏出したことを想定し定期的に緊急訓練を行い、外部への漏出防止、従業員の安全確保、組織としての対応状況を確認しています。

浄化槽に関する訓練風景

オイルセパレーターに関する訓練風景

■ 環境に関する規制等の遵守状態

●環境規制の遵守

高濃度 PCB 含有機器の廃棄物は国内 4 拠点で保有しておりますが、特別管理され、政府指定機関へ安全化処理の申請済みです。また使用中の PCB 含有蛍光灯安定器は計画通り更新しており、使用済み安定器は廃棄物として特別管理されています。

低濃度 PCB 含有機器も同様に特別管理され、政府指定の処理工場で順次安全化を実施していきます。使用中の低濃度 PCB 含有機器も計画的に更新していきます。

アスベストの除去は法規遵守し計画通り実施しています。

2014 年には本社地区別館の解体工事を行いましたが、事前の調査によりアスベストを含有した建材が使用されていることが分かりました。除去工事に当っては地域住民への説明会を行い安全な除去工事の理解を頂きました。また養生段階で地域代表者、千葉市担当者、工事責任者、弊社責任者による現場点検を行い、法規を遵守した準備状態を確認しました。工事は問題なく進み、廃棄物の最終処分確認を行い完了しました。

養生段階での現場点検

2015 年度は真岡地区内倉庫のアスベスト除去工事を行いました。こちらも同様に無事に完了しました。アスベスト除去工事は長期に渡ることが多く、工場の対象箇所については連休など活用し近隣住民、従業員の安全を配慮し実施しています。今後も安全な工事を第一に計画していきます。

■ 中期環境目標

鬼怒川ゴムでは国内主要拠点の CO2 排出量、産業廃棄物最終処分量、VOC（揮発性有機化合物）排出量について、経団連−日本ゴム工業会の環境自主行動計画に参加し環境負荷の低減に努めています。

グローバル拠点についてはエネルギー使用量・CO2 排出量・産業廃棄物発生量・水使用量を毎年把握し、エネルギー使用量・CO2 排出量・水使用量は CDP（環境 NPO カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）へ報告しています。

	活動内容		2015年度目標	2015年度実績	評価	参照ﾍﾟｰｼﾞ
1	地球温暖化対策	CO2排出原単位の削減 ※1	2005年度基準2020年度までに15%削減（2015年度ｶﾞｲﾄﾞ値は10%削減）	13%削減	○	P11
2	産業廃棄物削減	最終処分量の削減（直接） ※2	2001年度基準 90%以上削減	100%削減	○	P14
		最終処分率の削減（直接・　間接） ※3	1%以下	0.3% ※5	○	P14
3	VOC排出量削減	指定17物質の排出量削減 ※4	2000年度基準 50%以上削減	46%削減	× ※6	P14

※1）CO2 排出量原単位：CO2 排出量/ゴム樹脂材料使用量

※2）廃棄物最終処分量（直接）：自社が埋め立て処分している量

※3）廃棄物最終処分率（直接・間接）：処理業者が埋め立て処分している量/総発生量

※4）VOC 排出量：使用している資材に含まれる指定 17 物質の総量

※5）廃棄物最終処分率は前年比 50%以上削減

※6）VOC 排出量の目標は未達ですが徐々に削減しています。VOC が含まれる溶剤系の表面処理は水系への変更を展開中で、グローバル拠点で設備設置計画を進めています。2016 年度の排出量見込みは 2015 年度同様と予想されます。

1、 地球温暖化対策

CO2 排出原単位の削減

● 気候変動キャンペーン（国内）

鬼怒川ゴムでは地球温暖化防止のために『環境に優しい商品の開発と効率的な物造りで、低炭素社会へ』を宣言タイトルとしてFun to Shareへの登録を行いました。

「Fun to Share」。それは、最新の知恵をみんなで楽しくシェアしながら、低炭素社会をつくっていこうよ！という合言葉。目標に向けてガマンしながら必死に頑張るのではなく、毎日を楽しく暮らしながら、低炭素社会を作ろうという発想です。

代表的な活動として「CoolBiz」、「WarmBiz」が有ります。

● 生産活動

生産活動において素材の加熱・加工用に多くのエネルギーを使用しており、そのエネルギー元として、電気・ガス・重油などが消費されます。

CO2 は購入しているエネルギーの生成時、使用時に発生します。弊社では全社員が一丸となった省エネルギー活動を通じて CO2 排出削減に日々努めています。

弊社は経団連の『低炭素社会実行計画』に沿った日本ゴム工業会の環境自主活動計画に参加しており目標は基準年度（2005 年）比 2020 年度までに CO2 排出原単位 15%減となっています。

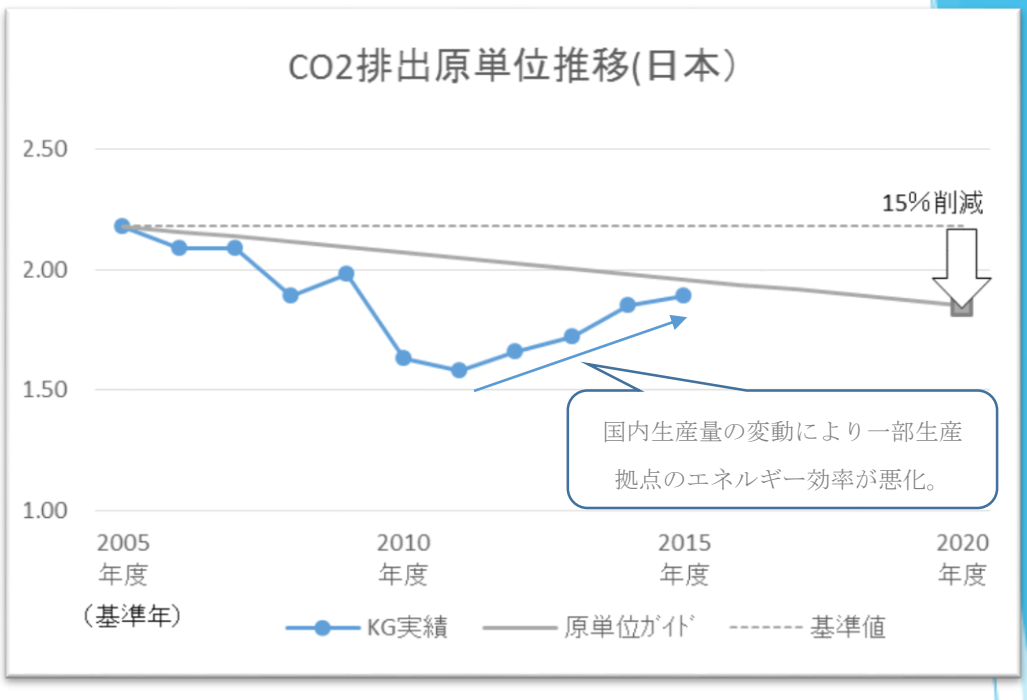
（CO2 排出原単位＝CO2 排出量/ゴム樹脂使用量）

CO2 原単位はエネルギー効率の良し悪しが分かる指標で、当社は 2010 年度から 2015 年度まで目標を達成しており、更に改善を加えエネルギー効率を改善していきます。

具体的な改善事例としては、下記のようなものが有ります。

●具体的な取り組み

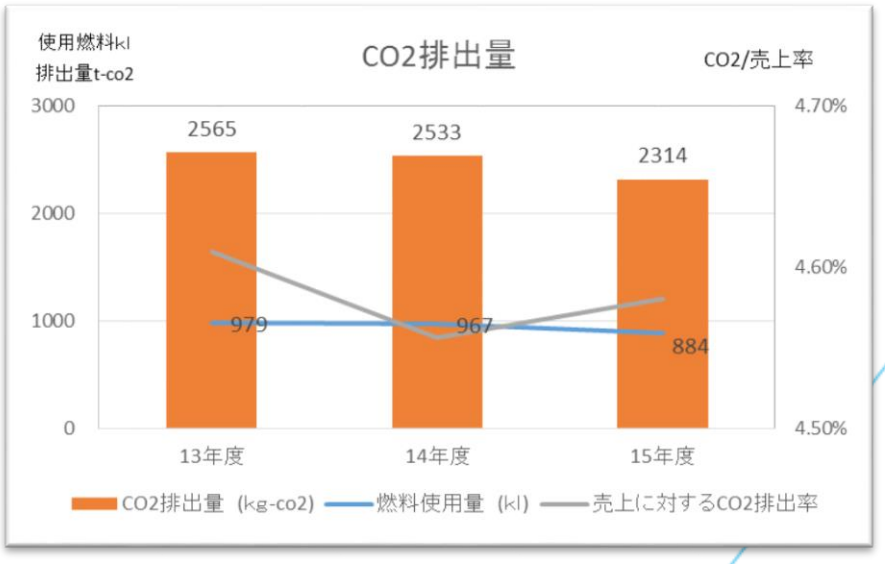
・既存設備のモーターを省エネモーターへ更新（IE1→IE3）。
・新規設備に省エネ油圧ユニットを採用。
・適正な容量の動力元への変更。
・工場蛍光灯の LED ライトへの更新。



● 物流部門

物流部門での CO2 排出量低減は前年度から 1%以上の削減を目標とし、省エネ活動に取り組んでいます。

2015 年度の CO2 排出量は乗務員のエコドライブ、車両の点検整備、デジタルタコグラフの活用などの効果で、2014 年度に対し 9%の削減が出来ました。引き続き活動の継続、新規アイテムの採用等により環境に配慮した事業活動を行ってまいります。

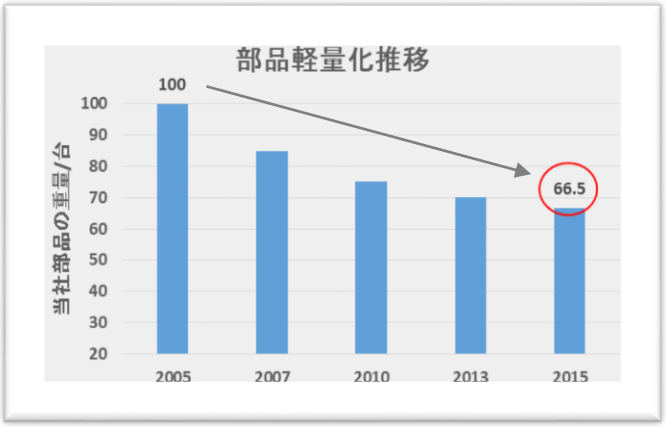


●製品設計（製品の改善）

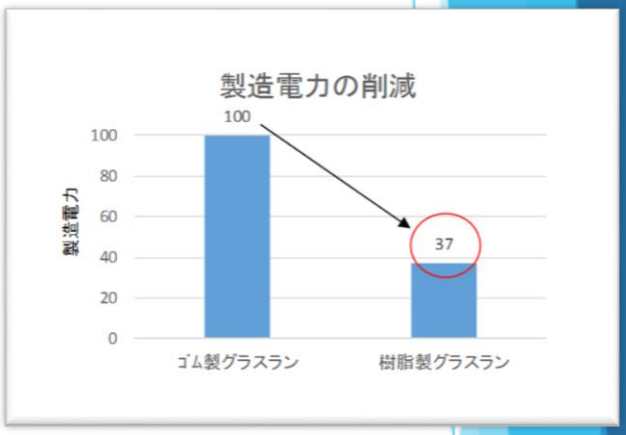
弊社では車体シール部品であるガラスガイドの断面形状縮小及び樹脂化と、防振部品に於ける鉄部分品のアルミ化により 2005～2015 年の間で 33%もの大幅な軽量化を達成しました（台当り使用量の当社比、グラフ1参照）。 2013 年以降は車体シール部品の軽量化として、ガラスガイドやドアシールの新規開発した軽量化素材への転換（Δ3.5%）を行いました。今後 2016 年～2018 年にかけて、軽量化素材への代替を推進していきます。

また車体シール部品の樹脂化に伴う工法の改善により、63%の生産エネルギー削減も同時に達成しております。（ガラスガイドの製造電力の当社比、グラフ 2 参照） シャシー精密部品でも多くの部品の樹脂化、軽量化を行い生産エネルギーの削減を行っています。

ｽﾎﾟﾝｼﾞゴム成形改善として、金型成形時の加硫時間削減できる新素材、新工法の開発により、加硫時間の大幅短縮（Δ50%）を行いました。1本あたりの成形加熱電力量は 40%削減でき 2015 年～2018 年にかけて、拡大展開中です。

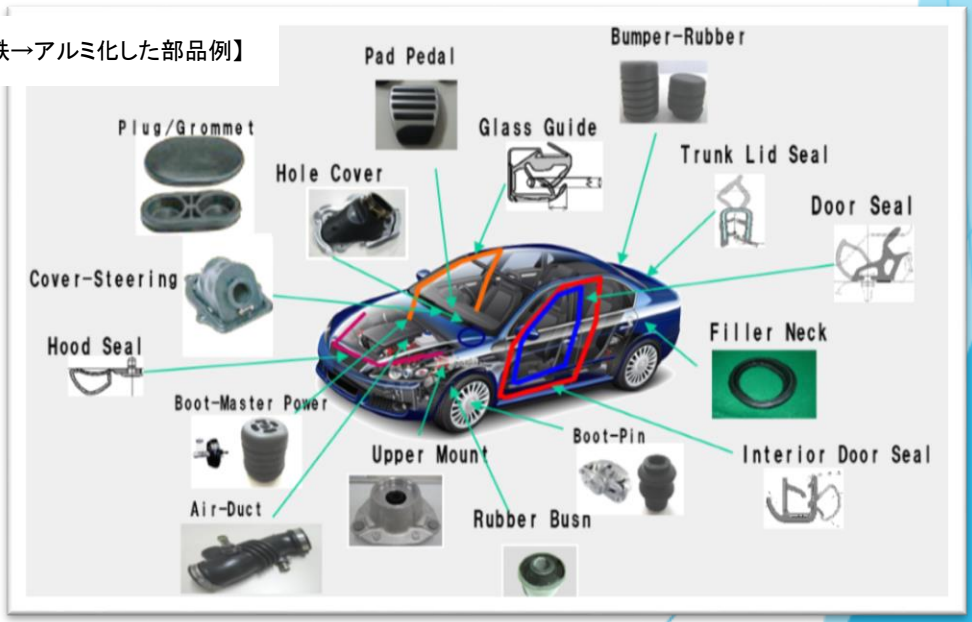


（グラフ1） 2005 年の重量を 100 とした時の各年の重量。



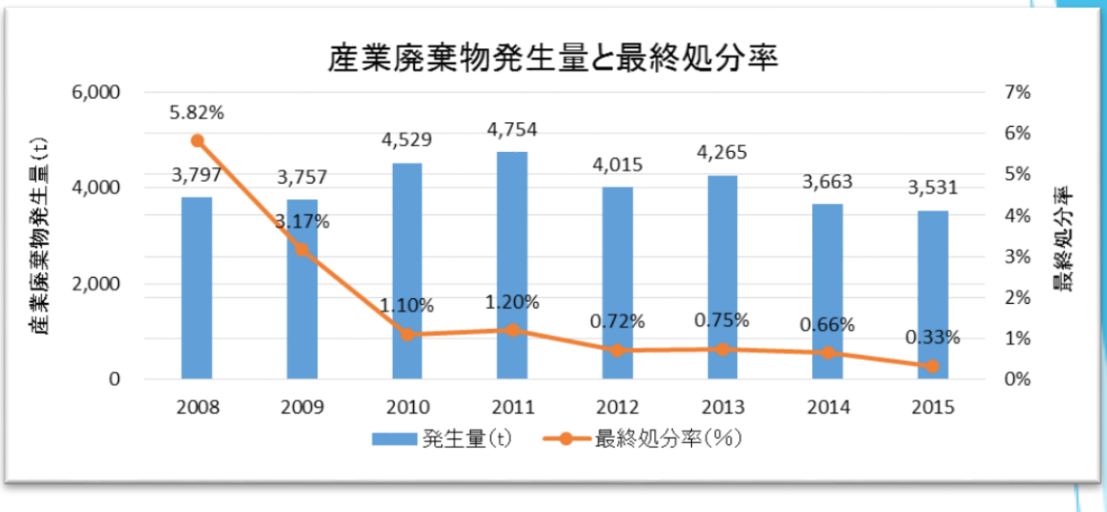
（グラフ2） ゴムグラスランの製造電力を 100 とした時の樹脂グラスランの製造電力。

【ゴム→樹脂化、鉄→アルミ化した部品例】



2　産業廃棄物削減（国内主要拠点）
最終処分量の削減、最終処分率の低減

国内主要拠点の産業廃棄物発生量は生産量の増減により変動しています。最終処分率（埋め立て処分率）は 2012 年度から 1%未満を継続しており、ゼロエミッション※1 を達成しています。2016 年度は引き続き 3R（Recycle、Reduce、Reuse）を継続し、埋め立て処分ゼロの完全ゼロエミッション※2 を目指します。



※1）ゼロエミッション　：　最終処分率が 1%未満。

※2）完全ゼロエミッション　：最終処分率がゼロ。

●具体的な取り組み

・車体シール部品、シャシー精密部品の樹脂化によるリサイクルの容易化（P10　図参照）。

・ゴム押し出し歩留まりの継続的改善（段取り改善、異物改善）を本社技術部門のグローバル拠点横断的活動により行い、廃棄物総発生量の削減につなげています。また設備改善アイテムは新規設備へのフィードバックを行い、環境負荷の少ない生産設備開発を行っています。

・グローバル拠点では粉砕機を標準で設けて、工程内リサイクルが簡単に出来るようになっています。

3 VOC(揮発性有機化合物)排出量削減 (国内主要拠点)
指定 17 物質の排出量削減

大気中の光化学反応により光化学スモッグを引き起こす原因物資とされている VOC(揮発性有機化合物)の削減に取り組んでいます。

2012 年度以降はキシレン、塩化メチレン等有機溶剤の使用削減に努め、排出量を削減することができました。2015 年度も前年度比削減しており、2016 年度は 46%前後の削減を見込んでいます。今後も下記のような取り組みを行い使用量、排出量の削減に取り組んでいきます。

● 具体的な取り組み

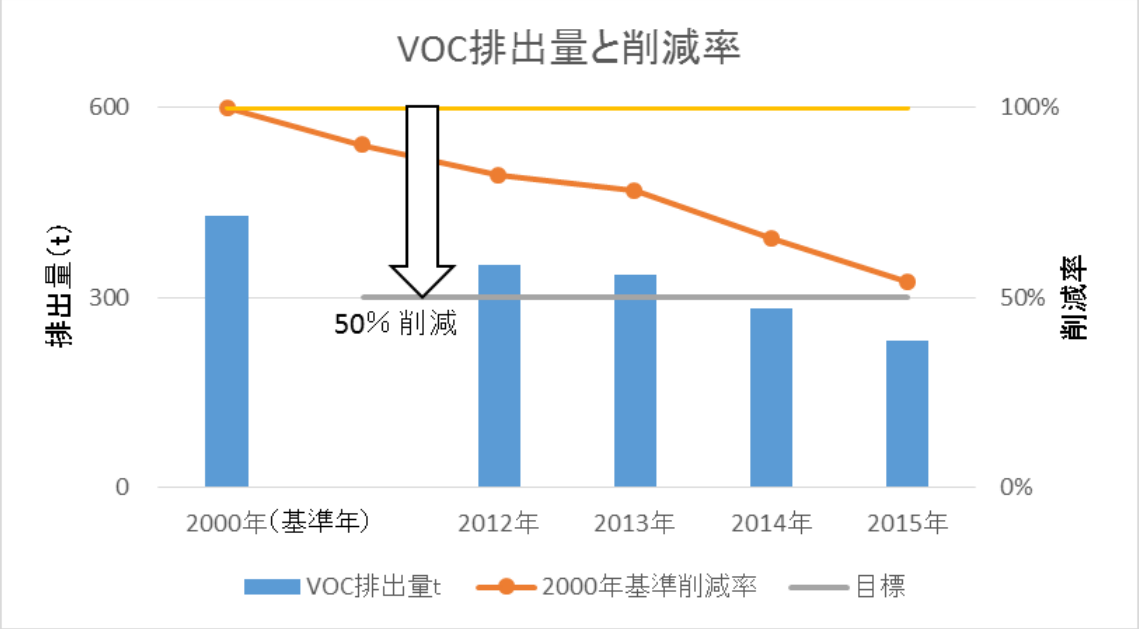
・新工法の開発により、車体シール部品の表面処理剤塗着効率を二倍(33%→65%)に向上させ揮発性有機溶剤排出量の削減を行うと共に使用する資材の削減も行っています。

・脱有機溶剤化(水系表面処理剤、水系接着剤への切り替え)
水系表面処理についてはグローバル生産拠点に展開中で、環境負荷の少ない生産活動を今後も 継続して行きます。

・表面処理剤の廃止
溶剤を使用しない表面処理方法を多くのシール部品で採用しています。

・VOC 対象外洗浄液への切り替え(塩化メチレン→臭素系溶剤)

・塗着効率の向上



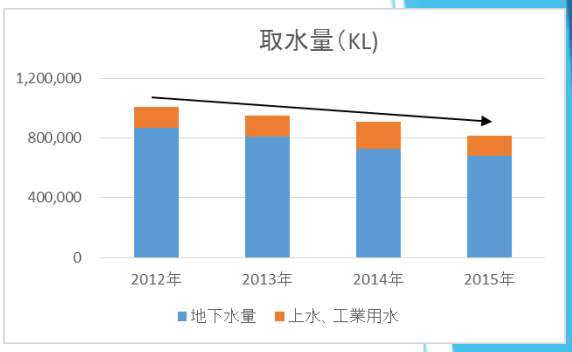
■ グローバル環境データ

グローバル拠点においても環境データを把握し、環境負荷低減に努めております。

● 水資源投入量

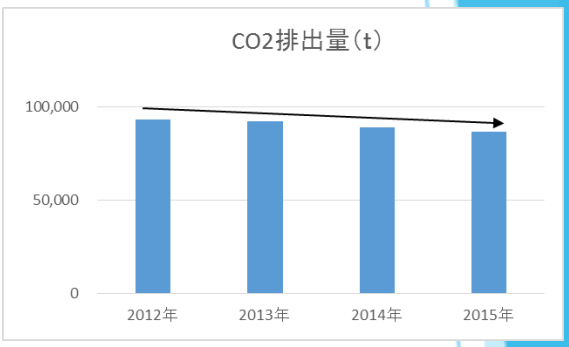
地下水など水資源の使用量削減

鬼怒川ゴムグループの水使用量は低減傾向です。特に地下水の使用量は循環水温度の見直しなどにより低減されています。今後は循環水システムの更新による排水量の削減などで水資源の有効活用に努めます。



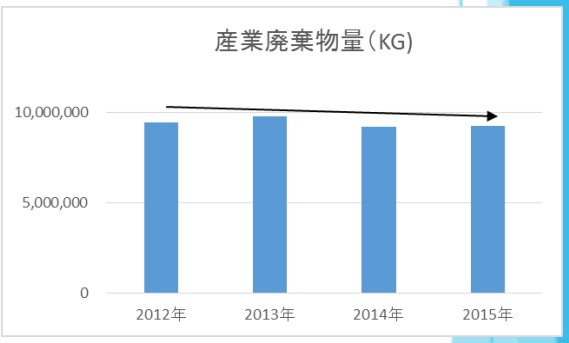
● CO2 排出量

鬼怒川ゴムグループの CO2 排出量は低減傾向です。国内同様に効率的なもの造りと、設備の改善によりエネルギー消費を抑え、CO2 排出量削減に努めています。



● 産業廃棄物量

鬼怒川ゴムグループの産業廃棄物量は低減傾向です。製品の樹脂化はグローバルに採用されておりリサイクル率向上、産業廃棄物量削減に貢献しています。

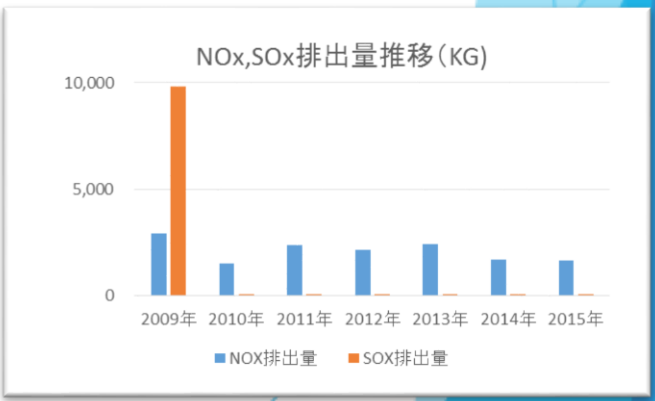


■ その他の環境データ

● 大気汚染物質の排出防止（国内主要拠点）

NOx、SOxの排出削減

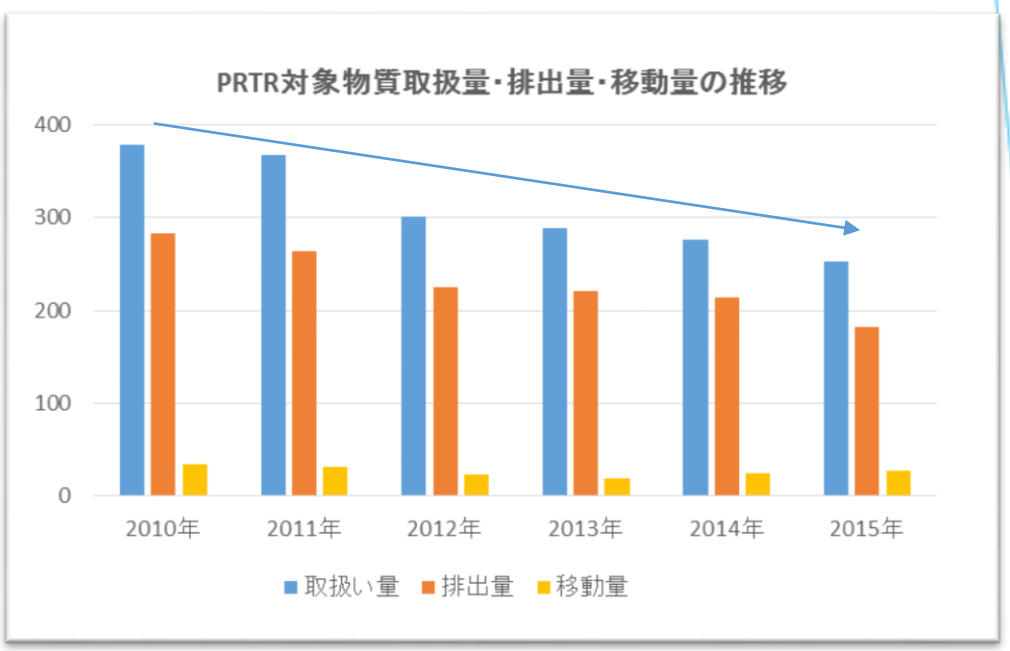
温室効果ガスのCO2 削減を目的にボイラーの燃料転換（A 重油→都市ガス）を 2010 年に実施したことにより SOx（硫黄酸化物）とNOx（窒素酸化物）の排出量が低減されました。



● PRTR※1（国内主要拠点）

※1） PRTR：Pollutant Release and Transfer Register(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律） 対象物質：第一種指定化学物質および特定第一種指定化学物質

2015 年度は 16 種類、取扱量 252tで前年度より 24t削減しました。今後も、資材の見直しなど継続した活動により取扱量、排出量、移動量を低減させていきます。



2015年度環境負荷物質の移動・排出状況（2015.4～2016.3）

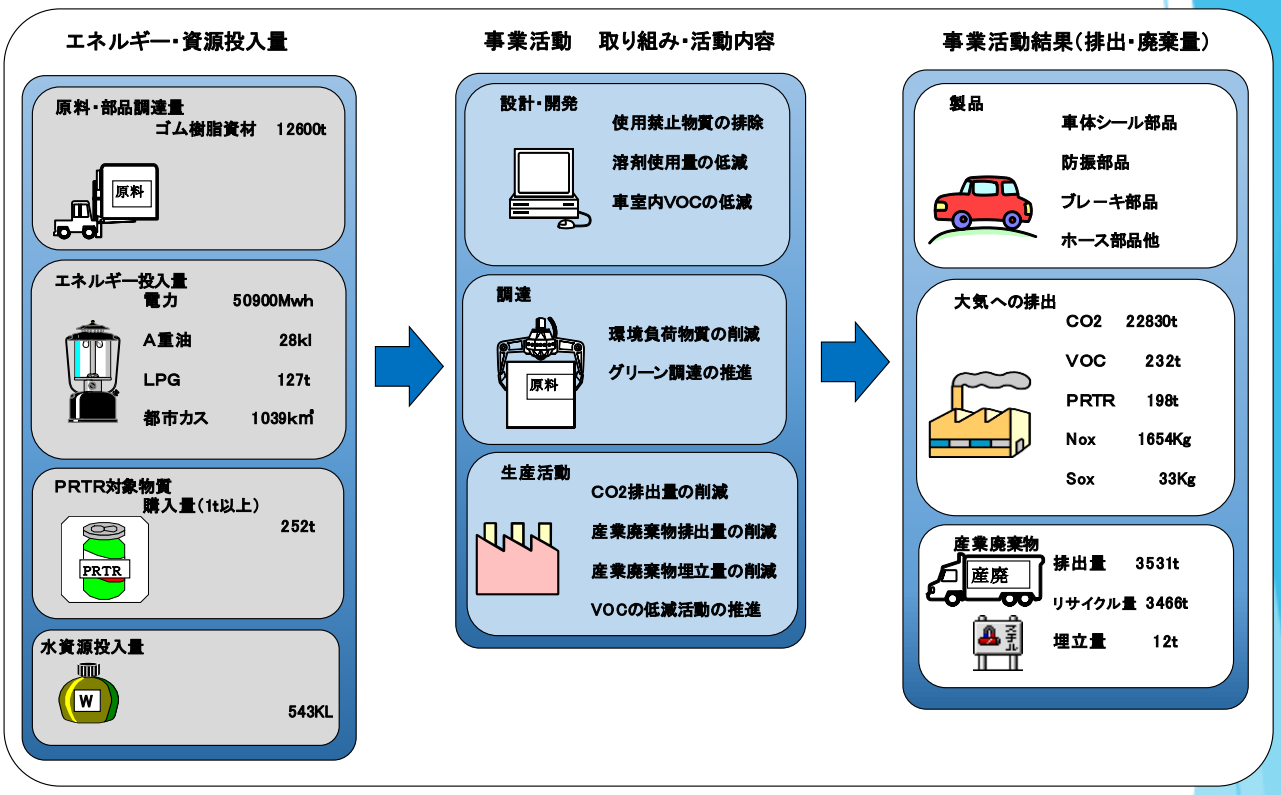
（年間取扱量が1t以上の、PRTR対象化学物質で集計） ＜単位t/年＞

政令番号	CAS番号	指定化学物質	移動量	排出量		
			廃棄物	大気	水質	土壌
300	108-88-3	トルエン	9.8	129.4	0.0	0.0
230	793-24-8	6PPD	2.4	0.1	0.0	0.0
262	127-18-4	四塩化エチレン	2.3	21.0	0.0	0.0
80	1330-20-7	キシレン	0.8	15.5	0.0	0.0
53	100-41-4	エチルベンゼン	0.7	12.4	0.0	0.0
15	80-51-3	OBSH	0.0	0.0	0.0	0.0
452	149-30-4	MBT	0.2	0.0	0.0	0.0
330	80-43-3	ビス(1-メチル-1-フェニルエチル)=ペルオキシド	0.3	0.0	0.0	0.0
268	137-26-8	チウラム	0.2	0.0	0.0	0.0
296	95-63-6	1，2，4-トリメチルベンゼン	0.4	0.2	0.0	0.0
384	106-94-5	1-ブロモプロパン	0.0	0.0	0.0	0.0
186	75-09-2	ジクロロメタン／塩化メチレン	0.0	0.0	0.0	0.0
42	96-45-7	ETU	0.0	0.0	0.0	0.0
232	68-12-2	DMF	0.1	1.4	0.0	0.0
454	95-32-9	2-(モルホリノジチオ)ベンゾチアゾール	0.0	0.0	0.0	0.0
205	102-06-7	DPG	0.1	0.0	0.0	0.0
合計			20	180	0	0

■ マテリアルバランス（国内主要拠点）

国内主要拠点の総物質投入量と排出量・廃棄量を示します。
原材料の多くを占めるゴム・樹脂は、製品の軽量化や生産エネルギー削減のために樹脂比率が高くなっています。また工程内リサイクルが容易なので廃棄物の削減効果も有ります。今後も会社全体で投入量削減、排出量・廃棄量削減に取り組んでいきます。

投入資源と環境負荷排出状況（2015年度実績）



■ ステークホルダーとの関わり

● 地域との関わり、社会貢献

キヌガワ郡山では高校 2 年生が進路選択や職業意識の向上等を目的に 3 日間の職場体験を受け入れています。例年、市内の工業高校の生徒が 2～3 名来社し安全等の座学・工務や工場での実習を行っています。今後も様々な機会を通して、地域とのコミュニケーションの推進に努めて参ります。

（右上：切り欠き裁断作業、右下：ﾋｰﾀｰのﾒﾝﾃﾅﾝｽ
下：ﾃｰﾌﾟ貼り作業）

千葉本社では千葉科学フェスタに参加し、市民の皆さんが身近な科学技術に親しめるプログラムを開催しました。

テーマ
『ゴムやプラスチックで作ってみよう！
自分だけの宝物』

● 従業員との関わり

当社では、中堅社員の外部研修制度の一環として、工学博士や経営修士号(MBA)取得を支援し、将来の経営基盤強化に努めております。

若手社員教育として、海外拠点へ半年程度の期間で派遣する研修プログラムを導入しております。
入社から5年目までの教育プログラムを策定し計画的な人材育成に取組んでおります。

ダイバーシティでの取り組みとして、女性技術者がグローバルで活躍できる職場環境整備を図っております。

● サプライヤーとの関わり

サプライヤーとの連携を強める為に毎年2月に各分野のサプライヤー約150社に対し「年次調達方針説明会」を開催しています。また特に繋がりの深いサプライヤー約20社に対しては月次メーカー連絡会を開催し、毎月の事業環境や生産量の予測、品質情報の速報、原低提案活動状況、CSRやコンプライアンス上のお願い、労働安全衛生法の遵守や環境法令遵守のお願い等、タイムリーな情報の共有化と安全な職場づくりへの支援活動を行っています。

グリーン調達の推進

環境に配慮したサプライヤーから環境負荷の少ない部品・資材の購入をする「グリーン調達」を推進しています。環境負荷物質については各国の化学物質規制に沿った資材・部品等の調達とサプライチェーンでの化学成分の把握を行っています。また環境マネジメントシステムの構築推進、環境負荷低減に関連する法規の遵守・パフォーマンス向上をサプライヤーと一体となって進めています。調達方針、具体的な依頼内容、報告ツールなどは「グリーン調達ガイドライン」に分かりやすく掲載しています。

■ 生物多様性

天然ゴムの調達においては生物多様性に関する取組みとして、天然ゴムを購入する農場に対し「法律の遵守」、「人権尊重」、「環境の維持」、「職場の安全と健康」、「品質管理」、「情報の開示」の継続的な維持を求め、協力頂いております。

鬼怒川ゴム工業株式会社
発行：鬼怒川ゴム工業株式会社
〒263-0005　千葉県千葉市稲毛区長沼町 330
問い合わせ：鬼怒川ゴム工業株式会社グローバル管理部
TEL：043-259-3370　FAX：043-259-3108
発行日：2016 年 12 月 28 日